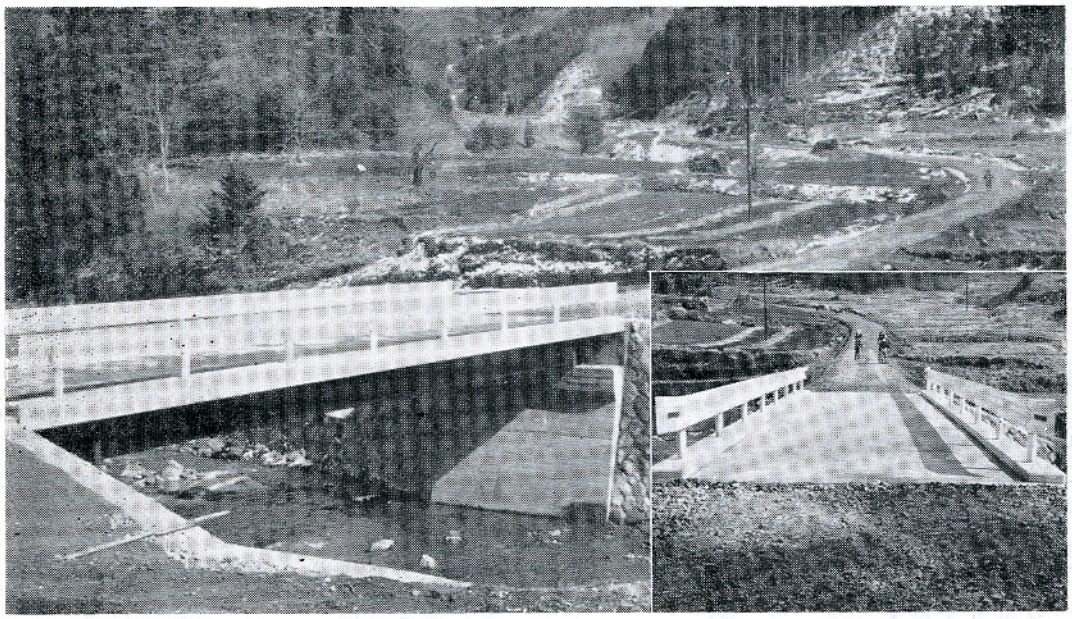
広報
さめがわ

1971
3月号
No. 208
編集兼発行
鮫川村総務課
境町・佐藤印刷所



馬場上橋

青い水、白いしぶき
とう　とうと流れる滝の音
原生林のみどりが枝を垂れ
山女が銀鱗の腹をひるがえす
強滝は私たちの心のふるさと
想い出される少年の夢……
その下流にみごとな橋が
架けられた。
林構林道馬場線の入口という
水の流れと碧い空に映える
朱色の橋桁が美しい。
里人の心をなぐさめ、
たつきのにぎわいの
ためにも馬場上橋よ
いつまでも健全
なれ！

☆3月のこよみ☆

1日　交通事故ゼロの日
3日　ひ　な　祭
4日　旧針供養
7日　消防記念日
18日　彼岸入り
21日　春分の日
25日　電気記念日
30日　県議会議員選挙告示

◀21日の第3日曜日は家庭の日です▶

今月の人口

人口	6,671	(+9)
男	3,374	(0)
女	3,297	(+9)
世帯	1,214	(0)

□□□□□□じまんの村に

東京から帰郷した娘たちがバスの中で「私たち故郷のじまんは、きれいな空気と雪だない」と話していた。これが本当の村の良さであり、遠く離れている者の生れ故郷に対するじまんと懐しさであると思つた。

太陽の顔も満足に見られない煤煙と排気ガスの中に生活している人たちとくらべて、この澄んだ青空、四季それぞれの美観を呈する山々、鏡の如き清流の中に生活している私たちは、この上もない幸せと考えなおさねばなるまい。このようなほこりある自然環境が年々汚されていくことは残念でならない。村民一人一人の責任において、道路の愛護は勿論、川中や堀、山すそ等を清潔にするよう充分気を配らねばならないと思う。

かくして遠く離れた人たちが懐しみ、他村の人たちからもあこがられる自慢の村にしたいものである。

富田小学校長　橋本久司

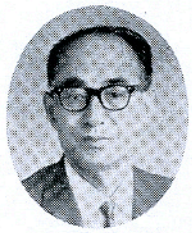
春の全国交通安全運動

・前期＝四月五日～四月十日
・後期＝四月二六～五月一日

新入学児童を交通事故から守りましょう。
正しい運転・正しい歩行
×酒のみ運転は絶対にやめましょう。

新しい年度にのぞむ村の予算

村長　石田卯子八



激動の年代といわれる一九七〇年代も第二年目に入りました。世相人心の動きにも、社会経済の営みにも大きな変動が現われつつあることが感じられます。

私はこの変動の時局に対処し、厳しい現実の姿を直視しながら、長期的な展望に立つて、わが村の限りない発展のビジョンを方向づけたいと念願しております

村の昭和四六年度予算は、三月定例村議会の審議を経て決定されることになりますが、予算編成の基本方針として次の三つの柱をたてました。

一、人間尊重の行政を展開する
二、変動する住民経済の安定的成長をはかる
三、住民福祉を向上し、豊かな住民生活への途を開く

これらの基本方針を推進するためには、健全財政を堅持すること。広域行政の推進による行政の効率化がを図るべきことはいうまでもありません。

先づ人間尊重の行政を展開して豊かな人間性を育成することは、人づくりの施策として従来とも基本方針の第一としたところでありますが、人間疎外の傾向が著しくなる現在、一層重点がおかれなければならないと思います。

新年度は、幼児対策では保育所の充実のほか季節保育所の開設も計画され、義務教育では統合中学校施設整備の完成年度として、屋内運動場、プール、スクールバスなどを計画しております。

社会教育では激動の世代に対処していく成人の教育、農業後継者の育成に力点がおかれます。また日に激しくなる交通事故の対策が重要であります。

わが村は、みどりの山、太陽の岡に恵まれ、そのまま人間生活の憩いの場として得難い景観の環境資源をもつております。このような時代にこそこれらの資源を開発して、豊かな情操を養ない、広く社会の人々にも活用されるべきであります。

米の生産調整を基点とする農政の大転換は既に実施されており、この際農業の再編成は必須の要件となりました。

米のみに依存しない農業、変動きわまりない時代に、長期的に安定した路線の農業に再編成し、安んじてその職に専念できる経営を確立するために、国県の施策も巧みにうけ入れながら、村の施策を講じたい考であります。

道路網の整備、農工一体の新しい農村体系については、十分検討のうえ努力する建前であります。

住民福祉の向上については、行政が住民奉仕の機能であることの理解に立つて、母子保健、児童福祉、老人福祉の充実に努めることにしました。

国民健康保険では、老人医療の一〇割給付を八〇歳以上とし助産費一人一万円を実現します

生活環境整備については、山村振興法の指定をうけたこの機会に皆様からのご要望を実現したいと思います。また広域行政の常備消防施設も出張所として村内に設置される予定です。

予算総額は
一般会計　三〇一、〇〇〇千円
特別会計国保五八、五六〇千円
特別会計直診一五、五七八千円

前年度当初予算に比し一般会計七・九％増、国保九・三％増直診三一・〇％増ということになります。何分のご協力をお願いします。

人事

◉（助役）須藤　英一
三月一日付。一身上の都合により退職されました。

おめでた

一月
内ケ竜　緑川　常之　父正　美
中沢　石井　和子　〃　栄
中沢　石井　順子　〃　栄

二月
鍛治平　芳賀　千春　父栄　良
反田　木村　和久　〃好　久
青生野　藤田百合子　〃　茂
青生野　吉成　佳昭　〃義　郎
前沼　青戸　真樹　〃文　雄
大平　関根　利樹　〃孝　夫

おくやみ

二月　世帯主
官代　田子ツネヨ　47才菊之助
藪　星　サタ　76才弘
名下　須藤　キワ　68才一雄
大沢　関根　ジン　81才次夫
鈴木田　松本　トメ　75才一郎
新宿　小滝　正春　62才セツ

三月
中沢　円谷キヤウ　88才未之助
遠ケ竜　矢吹　恵子　0才金蔵
彦次郎　赤坂　徳次　83才虎男
道少田　鈴木　ナヲ　73才栄美子

議会だより

壇の岡線着工
河川改良工事も!!

第一回臨時会

一月二十七日に臨時議会が招集され、次の二議案が可決され又選挙管理委員が改選されました。

◉議案第一号　昭和四十五年度鮫川村一般会計補正予算（第十号）

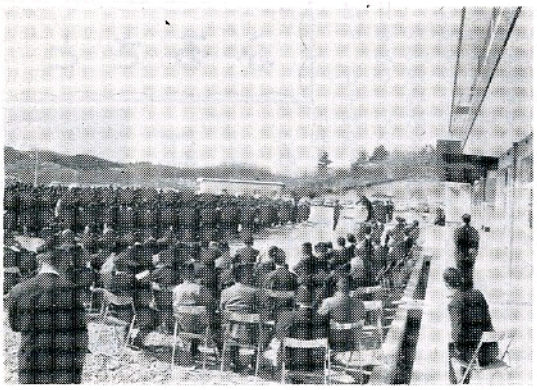
村税十万二千円、地方交付税三百二十二万一千円、県支出金十八万一千円の財源で、県道工事負担金百七十九万五千円、鮫川河川改良工事附帯工事費負担金百一万二千円等が補正増になりました。

◉議案第二号　辺地に係る公共的施設の総合整備計画について、

白河地方広域市町村圏整備組合に加入したため、沼野沢辺地、青生野辺地、中沢辺地の総合整備計画を一部変更しました。

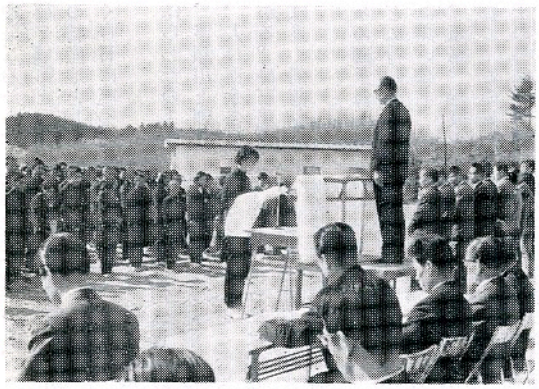
◉選挙第一号　鮫川村選挙管理委員会委員及び補充員の選挙について、





鮫川村統合中学校竣工式

2月17日より新校舎で授業が始められました。



全生徒を代表して、新校舎で学ぶ喜びと感謝のことばをのべる生徒代表の鈴木利恵子さん

農村中核夫妻研修会に参加して

二月一日から二日間石川町母畑八幡屋旅館において開催された地域農業振興と自立経営農家を志向する農村の中核的夫妻を対象とした研修会に出席してまいりました

この研修会には木村知事をはじめ斯界のエキスパートである諸先生から当面する農業情勢、企業的農業経営、農家経済と生活設計等について研修をうけ、今後の農業経営について（男子）農家の生活環境について（女子）それぞれ分団討議を行ない有意義にすごしました。

この研修会に出席して感じたことは農業をとりまく情勢が非常に厳しいなかで、その厳しさをのりこえ明日の農業をきりひらくべく努力をしている仲間が数多くいることに感銘し、明日の農業への勇気が湧いてきました。

一日一日が忙しいなかでこのような研修会に参加できたことは大変幸せだと思いよい勉強になりました。

常日頃私達農業者はどうしても家庭にとじこもることが多いので県内農業の現状だけでもなかなか思うように情報を得ることができないなかで国は勿論世界の農業を知る時代がきたことを痛感しました。まさに国際化の波が農業部門に入ってきたのです。これからは世界の農業を知ってその中で農業経営の確立をめざし、努力していきたいと思います。

私達は第三回目の研修会参加者ですがこれを機会に今後年一度ずつ会合をもつことを約束して散会しました。

鮫川村においても村内でこういう集会ができたらと思う次第です関係機関の努力を切にお願いいたします。

青戸代吉
〃　里子

選挙の手引

県議会議員選挙
＝四月十一日が投票日＝

県議会議員選挙のために選挙人名簿の選挙時登録を三月十六日におこないました。

○登録資格を有する者

1　昭和二十六年四月十二日までに生れたもので住民基本台帳に記録されているもの

2　昭和四十五年十二月十五日までに転入届をした者

○登録者名簿の閲覧

投票日の五日前まで毎日午前八時三十分より午后五時まで役場内で閲覧できます。

○不在者投票

三月三十日告示の日より四月十日まで毎日八時三十分より午后五時まで役場内でおこないます

選挙の当日用務又は勤務のため投票出来ない方は**期間**内に投票をすませて下さい。

なおくわしいことは選挙管理委員会に問合せ下さい。

（次号に村長、村議会議員選挙について掲載します。）

この一票くらしと
政治にかける橋
棄権しないで
投票しましょう!!

ふるさと

郷土の峠路 ②

江竜田峠

中井恒峯

この峠は塙町――鮫川村を結ぶ唯一の路線だが、近年弥彦―勿来線で一大注目をあびている路線でもある。

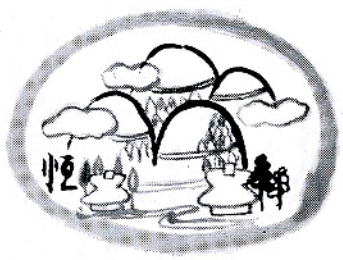
水郡線塙駅を下車して文字通りの塙駅鉄道唱歌（昭和六年十月頃）〽貝の化石のかつぼれや、原始時代を物語り、渡瀬川も古史に富む――を唄いながら最大出力五二〇キロワットの雨谷発電所を右に見ながらバスは峠にかかる。隣接する塙町には、なくてはならない渡瀬川も本村では鮫川につぐ大きな河川で古くから唄に出て来る。宮崎竜介作詞の塙小唄では〽水のささやき、乙女の恋よ、螢がげさす清き流れの渡瀬川とある。今も変らず清き流れをみせている。

江竜田獅子舞、特産蒟蒻が有名

徳川時代に於ては貢祖即ち御城米の納付をはじめ、公事の出入りなどは白河に出ず必ずや茨城県を経て江戸に至つたといわれておりこの峠もそんなわけで古くから道は開けていた。それで、この沿線には、江戸中期ごろから北茨城の保内郷や塙町と共にこんにやくの特産地としても耕作が多く今日に至つている。

くねくねと羊のはらわたのように谷をぬつて上り、渡瀬川と別れると戸数二十三戸、人口百余名の江竜田の部落にかかる。砕石現場などがあるが道路は良く部落を左に見る。

ここには古くからの獅子舞があり北野神社祭礼などに行われる。



獅子は黒塗り頭に黒い鶏毛、竜角、立耳、牙あり、短幕、羯鼓を吊げて左右の桴で打つ。この雄獅子、沖獅子、雌獅子の外に道化面を被り手に赤いふくべの大きいものを持つた道化が一人つく。七本調子位の六孔笛を吹く者六人から八人ほど両側に並ぶ。曲目は二十通りあるが、そのうち「剣舞」は左手に剣、右手に鈴を持つて舞う獅子舞を演ずることにより悪病退散するとしている。

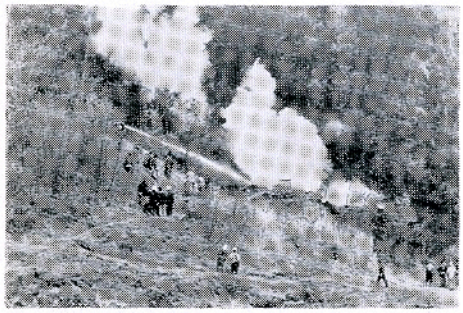
江竜田の滝など名所史跡多い

江竜田部落の南部に渡瀬川が流れているが、ここには美観二見の滝がある。川は青生野から源を発するものと大戸中から源を発する川が合流するところで、特に大戸中からの流れには十五メートルもの滝があり二見の滝といわれる。奇岩に富んだ転石の島で激流岩をかむ大小飛瀑をなし、年中美観の評がある。滝にゆく途中には小高い山に公園があり、現在は児童遊園地になつている。この片隅に樹令数百年という二本の松があり高砂の松といわれ有名である。このほかこの沿線には名所、史跡が多く鹿角平牧場、菅生館、大膳塚、薬師堂、救荒修祭の碑、小中学校など、伝説には鮫池・彦次郎ぢいさん・福原の伝説・弓張堂山伝説・炭やき太郎等がある。

本村唯一の国道昇格

今年の寒波は記録的な日が続きそうである。降雪による道路の被害はいうまでもない。

本村を横縦する数ある道路の中で、この峠を通過する勿来―弥彦線は国道に昇格。時代の移り変りと共に鮫川村にも国道が通過したわけである。「わが村は、鉄道のない村国道のない村として交通の不便を甘受してきたのでありますが、村の一部にせよ国道をもつに至つたことは社会的にも経済的にも意義あることだ」と石田卯子八村長の喜びの弁。かつて石川郡平田村がそうだたように、この国道の貫通によつて社会構造は大きく変つて来るであろう。（広畑出身福島テレビ勤務）



子供の火あそび
火の用心

春先きは、子供の火あそびによる山火事の危険があります、子供に火あそびをさせないよう常に注意して下さい。

長い冬からの解放感による油断から大きな災害を招くことがあります、**火の元には十分注意**して下さい。

!! 養蚕数え歌 !!

養蚕家で知られる、赤坂中野字真坂の湯座初男さんから次のような「養蚕数え歌」が寄せられました。

◇　◇　◇

一つとや　ひとつやりましょ養蚕を、恵比須顔する産業だ／＼
二つとや　不平いわずに消毒は皆さん実行しましようよ／＼
三つとや　みては見事な厚飼は蚕不揃えになりますよ／＼
四つとや　夜の見廻りつらくとも稚蚕の飼育は七日間／＼
五つとや　いつも飼育の出入りは必ず手足を洗いましよう／＼
六つとや　無言で給桑ていねいに整座拡座に目をくばれ／＼
七つとや　なんだかんだというたたとて規模の拡大重点だ／＼
八つとや　山から肥料をとりましよう固形肥料も入れましよう／＼
九つとや　ここで人手を省くには自然上簇やりましよう／＼
十とや　戸障子あけて温度とれ繭は解除で値がきまる／＼
十一とや　いの一番は土つくりよい桑良い繭増産だ／＼
十二とや　ニコ／＼朝起きしましようよ
みなさん時間に飼育所へ／＼
十三とや　三度の給桑充分に温度湿度も標準に／＼

※※※

鮫川史（27）

大塩の観音様

国島義広

前に天亀天正の戦国時代、各所に神社や仏閣の祭祀が行われた事を述べたが、此の度金沢次長らと大塩の観音堂を調査した結果、左の如き証査が得られた。

奥殿の厨子堂は領主松平周防守の万延元申年に建てられたものでその中に素朴な刻彫で本尊の仏像が安置されている。仏像の台座に墨書あり、正和五年丙辰（面暦一三一六年花園天皇の御代）、仏子菩薩正義、壇那大麻助光、と記されてある。

又仏像の背に墨書で銘あり、彩光施主長遠十八世観堂印、文化十癸酉十月中旬（西暦一八一三年家斉将軍の光格天皇の世）、大仏師職増子流家、行年十六才（製作の年令ならん）以上のことから仏像を作つてから約五百年後に、仏像に色彩を施したことがうかゞわれる。

この本尊観音菱薩像が作られた時代は、鎌倉幕府が倒れて英雄が諸国に割拠し、南北朝を孕む即ち第一次戦国時代とも云うべく、世が麻の如く乱れた戦乱の真只中である。南朝の元弘元年は北朝の元徳三年で、国に帝二つありて民心二党に分れ相争つた南北朝時代を遡ること十五年前で、今より実に六五四前の作であり、本村内でも最も古い仏像に入るものならん。

尚大塩の観音像は富田菅生薬師如来像（製作年代及び仏師不詳）と彫刻様式がよく似ているのを見れば或は同時代の作とも思考されるが、正しい鑑定は専門家に任せよう。左に棟札を略記し参考に供する。

棟札一
参籠壱七日諷誦般若心経一千巻
諸願円満享保九年霜月二十三日
長遠寺衆寮洞禅

棟札二
奉造営観音堂一宇、寛延二年三月吉日、担那筧伝五郎御代官
別当慈眼山地福院、導師光明密寺現住勝盛代

棟札三
奉造営観音堂一宇、享和四年四月吹日、坦那、寺西重次郎御代官導師光明密寺祐寛現住、同村名主石井代助、組頭水野幸蔵大工水野億右ヱ門

棟札四
奉造営観音堂一宇、天保四年四月朔日、坦那添田市郎次御代官導師光明寺

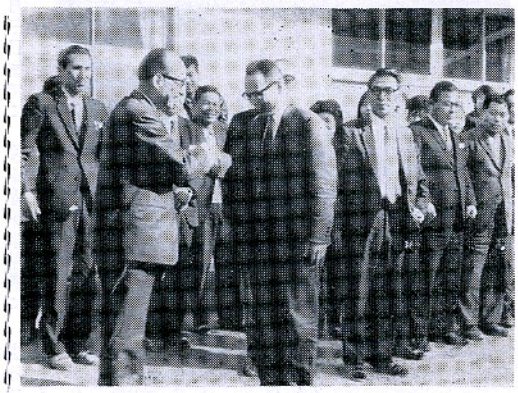
棟札五
陽柳観世音大菩薩別攸成就所
嘉永五年五月朔日、坦家西野村大塩坪、正別当導師光明寺、西野村名主石井忠右ヱ門、組頭水野幸七惣代山本勇吉同水野与右ヱ門

棟札六
奉厨子再建揚柳観世音大士
万延元年七月四日　領主松平周防守公、別当慈眼山地福院、導師光明密寺無住附、彦根寺法印良識勤之（鎌田）、庄屋石井忠右ヱ門、当国根岸村仏師要八組頭中蔵、世話人当所要七

棟札七
奉造営正観世音菩薩御宝前天平地成氏子安全御馬屋守攸、
明治十二年十一月二十九日、
導師正別当慈眼山地福院、右戸長石井八郎右衛門、

面白きことに此の棟札の裏面に参道の土地を寄附した記録が残つている。大長山観世音門路寄附、東門水野与右ヱ門、水野久太郎南門水野幸助、西門源野外之助矢吹万蔵、水野幸助

棟札八
奉新築陽柳観音大士、明治四十二年旧三月十三日八十八夜
尚この調査に当りて、独鈷クラブ会員の協力を感謝します。



長いあいだご苦労様でした。

昭和32年７月に助役に就任してから14年間村長の補佐役として勤められましたが、一身上の都合で3月1日退職されました。退職辞令交付のあと庁舎前で石田村長と前助役の須藤さんは堅い握手を交わして別れを惜しみました。

‖繭生産東白川郡一位‖
高坂正雄氏に県養連会長賞

大養蚕家で知られる赤坂西野の高坂正雄さんは、昭和四十五年の繭生産量が一、七五六kgで郡内で一位となり、去る二月二十七日に繭増産と蚕糸業の発展に寄与した功績に対し県養連会長から表彰されました。

昭和四十六年度は、年間二、〇〇〇kgの繭生産を目指しており、養蚕に対する意欲をもやしています。

なお、村内で次の方々も県養連会長表彰をうけました。

・関根　一　・高坂源一郎
・阿久津良兄　・星　弥義
・鈴木　幸栄　・星　弘

昭和45年度養蚕実績（高坂正雄）

◉農業経営内容（桑園130アール）

期別	箱数	収繭量（kg）	粗収入（円）
春蚕	14	433.2	511,214
初秋蚕	16	471.2	578,162
晩秋蚕(2回)	30	851.6	999,462
計	60	1.756.0	2,088,838

◉人件費及び肥料代等632,000円を費やしています。

